

尾根の上に作られたストーンサークル

17

じ ちん やま かんじょう れっせき

地鎮山環状列石



- 所在地：小樽市忍路2丁目
- 問合せ先：小樽市教育委員会教育部生涯学習課（TEL 0134-32-4111）

縄文時代後期の小型のストーンサークルで、国指定史跡「忍路環状列石」より西へ約1km先、標高50mの丘の尾根上に作られており、時期によっては地鎮山環状列石から忍路環状列石を見渡すことができます。北海道指定史跡となっている地点は、現在12個の小型の立石が、長径10m、短径8mの楕円形に配置されています。

また、小樽市・余市町周辺のストーンサークルでは唯一、主体部（遺体の埋葬場所）と思われる部分の発掘が行われています。昭和24（1949）年の調査で、ストーンサークル内側の南寄りに拳大の礫^{れき}が円形に敷かれていたことが確認されています。その下にあった主体部は方形に掘られており、底部に敷石があることも判明しました。約70年も前の調査ではありますが、周辺のストーンサークルの内部構造を考察する上で大変貴重な調査であったと位置付

けられています。

小樽市西部の忍路地区から余市町にかけて所在する環状列石群の一つに数えられており、地鎮山環状列石や西崎山環状列石（キーワード参照）のように見晴らしの良い尾根の上に小規模なストーンサークルが作られたのちに、忍路環状列石のように造成工事を伴う大規模なものが出現したものと考えられています。

●キーワード：西崎山環状列石（ストーンサークル）忍路、地鎮山のストーンサークルの西約2km地点、南北に延びる細い尾根の上に分布する。小樽市と余市町の市町境界となっていて、北海道の史跡に指定されている区域は余市町域にあるが、小樽市域にも配石が存在する。



【写真】地鎮山環状列石